地域　担い手　サポ・センだより

JAグループ山形

先進園芸学び　就農へ

JA全農山形の実証研修農場

2014年4月、三川町の県庄内総合支庁隣にJA全農山形の園芸産地拡大実証研修農場がオープンした。

JA全農式トロ箱養液栽培システム「うぃずOne」によるミニトマト「アンジェレ」の低コスト栽培やパプリカ、軟白ネギ、促成山菜など新品種の試験栽培、水稲育苗ハウスを活用した葉物野菜のリレー栽培、防除体系試験など、変革の時代に対応し、農業の新たな魅力を探る各種実証試験を行っている。

人材育成も狙いの一つだ。地域・担い手サポートセンターの「地域で育てる担い手育成支援事業」を活用し、3年間で計10人の担い手を地域に送り出した。

先進的な農業技術に触れられる環境の中で、今年度は佐藤祐司さん(39)、本間諭さん(32)、鈴木慎吾さん(30)、冨樫史紀さん(25)、川村拓真さん(21)の5人が研修に励む。

5人はネギやイチゴ、アスパラガスやミニトマト栽培、規模拡大などに夢を膨らませる。JA全農山形庄内営農推進室調査役の田苗浩志さん(56)は「農業経営のノウハウや最新の技術を吸収し、庄内農業発展のため頑張ってほしい」と話す。

地域で育てる担い手育成支援事業は、やまがた農業支援センターが14年度から実施。16年度からはオール山形の下でJAグループ山形も協力する。生産者個々の「点」による担い手受け入れから地域による「面」的受け入れを通じ、産地形成につなげる。

就農の動機づけや就農準備、就農5年後までの初期段階に、JAグループは経費の4分の1以内を支援する。現在、10JA、1連合会、5農業法人、1研修受け入れ協議会で、支援の取り組みが進行中だ。

就農に向け、ミニトマト「アンジェレ」の低コスト栽培法を学ぶ研修生

©日本農業新聞　無断複製転載を禁じます。